

## 未来を築くコース会議2017～“対立”と向き合う～

# 第2回 応用編 身近な対立から学び 対立を越える

- 日時：2017年8月24日（木）10時12分～17時07分
- 場所：あいち国際プラザアイリスルーム
- 参加者：12人
- ファシリテーター：伊沢令子（NIED・国際理解教育センター）、記録：川合眞二（同左）
- 全体（全4回）のねらい
  - 対立とは何か、対立の定義や特徴などについて学び、対立という視点から世界と日本をふりかえる。
  - 社会で起きている様々な対立の原因を探り、対立解決のために必要なものや役立つことを考える。
  - 非暴力で建設的に対立を解決するスキルについて学び、より大きな対立解決に活かせるようになる。
  - 自分たちの未来を自分たちの手で仲間と共に実現していくコース・モデルとなる。
- 第2回のねらい
  - ① 身近な対立を題材に、対立の原因を探り、対立を越えるために必要なもの役立つものを考える。
  - ② 身近な対立に対する様々なアプローチ法や、対立を緩和させるスキルについて学び練習する。
  - ③ これまでに各自が経験した対立についてふりかえり、対立解決プロセスをシュミレーションする。

### ● プログラム

1. 本会議の目的及び第2回のねらいの確認
2. 第1回のふりかえり
3. グループ替えとキーワードで自己紹介
4. わたしのモノ語り
5. 「対立解決」とは？
6. 対立を捉える視点 「視点メガネ」
7. 視点メガネを分析するロールプレイ
8. 自分の対立のふりかえり～対立のセルフカウンセリング
9. 午前中のふりかえりと午後の予定の確認
10. アイスブレイキング 「回答割合に合った質問づくり」
11. グループづくりと一言自己紹介
12. グループ対抗全員違うところ見つけ
13. 多様性を尊重しないと？
14. 5つのCとケース・スタディ
15. グループ替えと一言自己紹介
16. 5つの聞き方
17. 3つの伝え方
18. みんなでバカンス
19. 全体ふりかえり

● 記 録

[ ] : 所要時間

## 1. 本会議の目的及び第2回のねらいの確認 10:12- [5]

- 会議のねらいの説明…ファシリテーターを務める NIED・国際理解教育センターの伊沢代表が、本会議の目的、テーマを「対立」とした意図、第2回のねらいについてレジュメを基に説明した。

## 2. 第1回のふりかえり 10:19- [15]

- 第1回記録の確認…各自、配付された第1回の記録(10頁)を読み、行ったことや成果を確認した。その際、印象に残った3カ所に下線を引いた。
- 印象に残った箇所の共有…グループ内で、印象に残った3カ所をその理由とともに紹介しあった。1人につき1分~1分半の時間で。
- 対立の定義・特徴の確認…第1回で学んだ対立の定義「2人以上の人の間で起こる意見の不一致又は口論」、対立の特徴「①場所・原因(モノ価値観・好み)を分析すると扱い易くなる。②対立は解決しようと思わない限り感情を伴って激化する。一段上ると下に降りにくくなる。③対立を激化させる言動があり、同様に対立を緩和させる言動がある。」



## 3. グループ替えとキーワードで自己紹介 10:44- [10]

- グループ替え…1~4の番号を振り、同じ番号の人同士でグループになった。
- 3つのキーワードで自己紹介…各自、自分を紹介するための3つのキーワードをA4用紙に書き、それを基にグループ内で自己紹介を行った。

## 4. わたしのモノ語り 10:54- [21]

- 大切にしているモノ 10個出し…各自、いま自分が大切にしているモノ(物質的なモノ)を10個、A4用紙に書き出した。
- ペアで紹介…ペアになって、1人2分間で自分が大切にしているモノのうち上位3つについて紹介しあった。
- 他己紹介…グループ内で、ペアになった相手のことを1人1分間で他己紹介しあった。
- 全体で紹介…何人かに、他己紹介の内容で「へえ～」と思ったことを全体で紹介した。



## 5. 「対立解決」とは? 11:15- [5]

- 資料の読み…配付資料「対立を越えるコミュニケーション」のうち、「対立解決」とは?の項目を、グループ内で、代表一人が読み上げて確認した。

## 6. 対立を捉える視点「視点メガネ」 11:20- [13]

- 概念の確認…配付資料「視点メガネを通して対立をみてみると」を基に、次の5つの種類の視点メガネが異なることによって対立が起こることについて確認した。

- ① 要求…心理的・感情的に望んでいること
- ② 価値観…考え方、稚拙にしている信条
- ③ 経験…これまで身に起きた体験
- ④ 感情…見るものやしたことに対する気持ち
- ⑤ 目標…達成したいこと



- ケース・スタディ…グループ内で、配付資料にある対立の状況（ゲイルとその彼女リニーのけんかですぐ争うべきか否かの言動）は、どの視点メガネのどんな内容によって対立が起きているのかを分析した。

## 7. 視点メガネを分析するロールプレイ 11:33- [22]

- ケース1のロールプレイ…4人グループの中の2人が、対立が起きているケース1のAさん、Bさんのやりとりを実演してみた。
- ケース2のロールプレイ…4人グループの中の別の2人が、対立が起きているケース2のAさん、Bさんのやりとりを実演してみた。
- ケース1と2のロールプレイの分析…ケース1と2それぞれのロールプレイを見た2人で、相手のロールプレイのセリフ原稿も見ながら、どんな視点メガネで対立が起きていたかを分析した。



- ファシリテーターコメント…他の人の対立を会った時に冷静に仲介・仲裁できるスキル、自分の対立を客観的に見られるスキルを身につけられるとよいと考える。

## 8. 自分の対立のふりかえり～対立のセルフカウンセリング 11:55- [20]

- 自分の対立の経験出し…自分がこれまで経験した対立の状況・事実をふりかえり、右表の様式でA4用紙に書き出した。
- 対立のセルフカウンセリングの問いかけの共有…ファシリテーターが次の5つの問いかけを紹介した。
  - ① どんな対立？、② その時の気持ちは？
  - ③ お互いが望んでいたことは？、④ 対立をどう扱った？
  - ⑤ もっとこうすれば良かった！と思うこと

対立の状況・事実		
	自分	相手
気持ち		
望み		
対応		
こうすればもっとよかった！		

- ふりかえて気づいたことの共有…グループ内で、対立のセルフカウンセリングをして気づいたことなどを発表しあった。

★ お昼休み 12:15-[63]

## 9. 午前中のふりかえりと午後の予定の確認 13:18 - [4]

- ファシリテーターコメント…午前中は、主に対立を捉える視点について考えた。午後は、対立を建設的に解決する方法について学びたい。

## 10. アイスブレイキング「回答割合に合った質問づくり」 13:22 - [13]

- 質問づくり…3つのグループでそれぞれ次のような答えが得られるような質問をできるだけ多く考えた。  
A : 11人対1人になるような質問  
B : 6人対6人、C : 8人対4人
- 発表&答え合わせ…考えた質問を以下のとおり発表し、実際に移動して、目標割合になるかを確認した。  
<A>素手でゴキブリに触れる人・触れない人  
灰色が一番好きな人・そうでない人  
男装もしくは女装したことがある・ない  
<B>犬派と猫派、たこ焼きとお好み焼き、夏・冬  
<C>納豆食べる・食べない、きのこの山派・タケノコの里派、パクチー好きか否か
- 全員がバラバラになる質問は？…12人が全部バラバラになる質問を考え発表した。



## 11. グループづくりと一言自己紹介 13:35 - [9]

- パースデイラインアップ…誕生日の日にち順に輪になり、1に近い人から4人ずつでグループを作った。
- 一言自己紹介…グループ内で、好きな歌とその理由をお題に、一言自己紹介を行った。

## 12. グループ対抗全員違うところ見つけ 13:44 - [7]

- 全員違うところ探し…グループの4人全員が違うことを3分間でできるだけ多く見つけ、全体で発表した。  
<発表内容> 身長、高校、好きな食べ物、目玉焼き、好きな魚、好きなパン、好きな色、好きなお土産、ご飯の友、出身地、年齢、好きな異性のパーツ
- ファシリテーターからのコメント…好みが多かった。価値観の違うもあると思う。喜怒哀楽は同じだけど、その程度は人によって違う。グローバルに見れば、国籍、宗教、人種、習慣などが違う。

## 13. 多様性を尊重しないと？ 13:51 - [21]

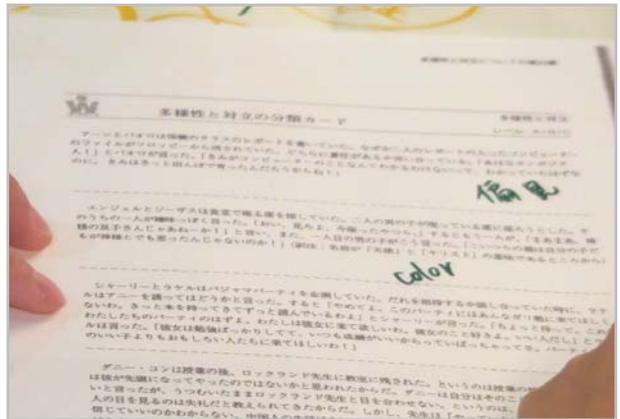
- 派生的に考える…違いを認めず、同じことを強いるような多様性を尊重しないと起きることを考え、さらにそれが起きるとどうなるかという風に派生的に考え、模造紙に書き出した。
- 立場やテーマを変えて膨らませる…立場（子ども、異性、障害者など）やテーマ（福祉、まちづくり、国際交流など）を変えて、さらに付け足した。さらに、最もヤバい結果だと思うものにドクロマークを付けた。



- 全体共有…模造紙を回し読みして他のグループのアイデアを共有した。
- ファシリテーターからのコメント…マイノリティと呼ばれる少数者が困ることになるし、テーマや立場は様々で、自分に関わることもある。

## 14. 5つのCとケース・スタディ 14:12- [32]

- 対立に関わる多様性…対立を引き起こす可能性のある多様性を5つのCで始まるキーワード（英語）が何かをグループで考え、全体で発表し、その後ファシリテーターが答えを伝えた。  
＜5つのC＞ ①カルチャー（文化）、  
②カラー（肌の色）、③キャラクター（性格）、  
④クラス（地位）、⑤コンテキスト（現状）
- ケース・スタディ…配付資料「対立と多様性の分類カード」の5つのケースを読んで、これらのケースがどの5Cに当てはまり、どのような行い（攻撃、誤解、偏見）をしているものかをペアで分析、仕分けした。仕分けした結果とその理由をグループ内のペア同士で発表しあった。
- ファシリテーターからのコメント…自分たちが大切にされなかった歴史、抑圧されてきた経験などの当初の背景があることを理解する必要がある。自分たちは5つの多様性を認めて生活しているか？自分とは異なる人たちと対等に接しているだろうか？偏見、差別の落とし穴に落ちていないだろうか？自分の良さを理解していて自己肯定感が高い人は、多様性の中でも偏見や差別は少ないという結果が出ている。



### ★ 休憩 14:44-[12]

## 15. グループ替えと一言自己紹介 14:56- [9]

- グループ替え…じゃんけんして好きな番号を選んで同じ番号同士でグループになった。
- 一言自己紹介…「恋愛対象としてこんな人に惹かれる3つの要素」で自己紹介を行った。

## 16. 5つの聞き方 15:05- [25]

- 4つの聞き方の実演…グループ内で、次の聞き方の役割を決め、ペアが話し手・聞き手+傍観者2人で、①～④を順に実演した。話す内容は「いままで食べたもので一番美味しかったもの」。1回50秒間。  
①無関心、②否定的、③上目線、④乗っ取り
- 5つ目の聞き方「傾聴」…共感的に聞いた後、聞いたことをそのままふりもどす聞き方を、グループで1人ずつ行った。
- わかったこと・気づいたことの共有…5つの聞き方をやったり見たりして、わかったこと・気づいたことをグループ内で発表・共有した。その後、全体でグループから1人が発表した。



### 5つの聞き方をしてみて、わかったこと・気づいたことの発表内容

- ◇ 無関心を担当してがんばったが笑ってしまったが、普段はできている証左と思った。傾聴してくれた方がとても話しやすい。母親との会話で受け流すことをしたことを反省した。
- ◇ ①～④の聞き方では話す気が失せる。聞き手・話し手どちらにもデメリットになると思った。
- ◇ きちんと聞いてあげたいし、聞いてもらいたいと心から思った。

## 17. 3つの伝え方 15:30- [10]

- 3つの伝え方の確認…ファシリテーターが伝え方には次の3つのタイプがあると紹介した。  
① 受け身的 (スネ夫)、② 攻撃的 (ジャイアン)、③ 主体的 (静香ちゃん)
- 主体的な伝え方の練習…アサーション (自分も相手も大事にする伝え方) についての資料 (例題) を読み、各自で練習問題をやってみた。グループ内で、主体的な伝え方をどのように書いたかを伝え合った。

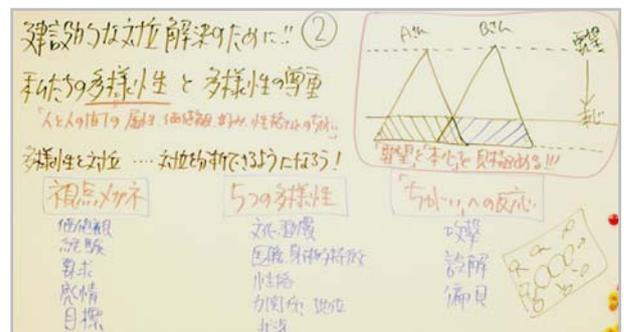
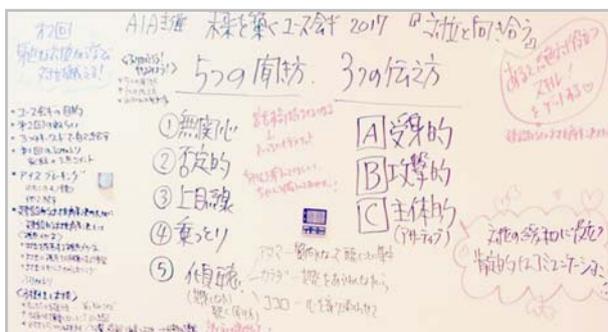
## 18. みんなでバカンス 15:40- [25]

- 個人の考え出し…グループメンバーで一緒に行く1週間1カ所滞在型の旅行先を各自考えた。
- 否定される体験…右隣の人の旅行先について「ごめん！悪いけどそこだけは無いわ、だって〇〇だもん」と否定してみた。
- 本心の内省…なぜその旅行先に行きたいか、その理由や要素を各自 A4 用紙に書き出した。
- 要望と本心の話し合い…要望と本心の説明をファシリテーターから聞いた後、旅行先の本心が重なるところを見つけ出すための話し合いを行った。
- 全体で発表・共有…全体で結果を発表した。最終的に決まった旅行先に納得しているか挙手で確認した
- ファシリテーターからのコメント…ウィンーウィン型の対立解決がめざす方向である。



## 19. 全体ふりかえり 16:05- [5]

- ファシリテーターからふりかえり…今日1日行ったことを、板書を基に改めて簡単に解説した。



- 感想の共有…グループ内で、今日1日の感想を伝え合った。
- 終わりのあいさつ…主催者の内木さんが終わりの挨拶を行って終了した。

★16:10 終了 お疲れ様でした！！